

## 活動テーマ

## ヨシ行けどんどんん作戦

## 実践事例について

生徒と地域の方が協働してヨシ苗を湖岸に植えることで、減ってしまったヨシ群落の再生を目指している活動である。ヨシ群落は魚の産卵場所になったり、稚魚が育つ場所になったりしている。また、琵琶湖の水質を改善するはたらきもしている。本活動を通して、生徒が積極的に、実践的に環境問題に関わろうとする態度を養うことを目的としている。

## 1 ヨシ行けどんどんん作戦（準備・育苗）

## (1) 春のヨシ刈り（5月28日）

環境委員会が中心となり、ボランティアの生徒やPTA役員、教職員とヨシ刈りを行った。ヨシ刈りは、9月の本日で植えるヨシ苗をつくるための最初の作業である。安全のために長袖長ズボンの暑い服装にもかかわらず、生徒たちはヨシの中に分け入って一生懸命ヨシを刈っていた。刈ったヨシで、軽トラの荷台はいっぱいになった。

葉を落としたヨシを中学校のビオトープの池につけると、ヨシは節から新しい芽や根を出す。この芽が生長して、ヨシ苗となる。



## (2) ヨシ苗のポット上げ（7月5・6日）

2ヶ月もすると、ビオトープに浸したヨシの茎から、新芽が20cm程に成長した。それまでの変化はタブレットで記録し、成長が目に見えるようにした。新芽をポットに移す作業(ポット上げ)を行った。ビオトープの大きさも考えて、学年ごとに作業を行った。新芽が育った節の所をはさみで切り、新芽だけをポットに移した。7月という暑い中、子どもたちは両手をどろどろにしながら一生懸命作業に取り組んだ。1年生63名、2年生78名、3年生79名、そして教職員とPTAの方々が協力して約3000鉢のヨシポットを作ることができた。できたポットはビオトープ周辺の排水溝へ入れ、一夏の間、水を切らさないようにして、より大きくなるように育てた。

## 2 ヨシ行けどんどんん作戦（本日 9月24日）

準備は朝にPTA役員と教職員とが協力して行い、中学校から会場へ備品やヨシ苗を運搬した。

10時に作業を始めた。参加者は、生徒・PTA会員と南浜漁業共同組合の方などの地域の方々であった。まず湖岸の清掃活動と植える場所の草刈りをした。環境を守る態度を育むためにヨシを植える前に湖岸のゴミ拾いを実施している。

次に、約3000鉢のヨシ苗を南浜の湖岸に植えていった。毎年、学年で同じ場所に植栽している。そうすることでヨシ原の変化を実感することができる。植えたヨシは3月に刈る。次年度このヨシをすき込んだ紙を卒業証書にしてもらい、卒業時に受け取れるようにしている。



この植栽活動で琵琶湖岸にヨシ群落が少しずつ戻ってきている。この活動が評価され、帝国書院の地理の教科書に写真が掲載されている。本校生徒はこの活動を「びわ中四大行事」のひとつに位置づけて、この活動を誇りに思うとともに継続して行きたいと願っている。ヨシ行けどんどんん作戦をこれからも継続していき、琵琶湖の環境保全と生徒の環境教育に邁進していきたい。

学校名	長浜市立びわ中学校
住所	長浜市弓削町460
電話番号	0749-72-2028
E-mail	<a href="mailto:biwa-chu@city.nagahama.lg.jp">biwa-chu@city.nagahama.lg.jp</a>